



ワールド・コラボ・フェスタ2021
Buna ziua! ～祝日本・ルーマニア国交樹立100周年～

ROMANIA AND DRACULA

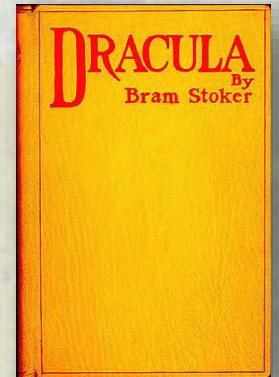
ルーマニアとドラキュラ



ご存知でしたか？

ドラキュラのモデルはルーマニアの英雄です！

一般的に多くの方々が想像する「**ドラキュラ伯爵**」は、アイルランド人作家のブラム・ストーカーの小説『**吸血鬼 ドラキュラ**』に登場する人物です。



そのモデルとなった人物は、ワラキア公国の君主であった**ヴラド3世** (Vlad III) とされています。

ヴラド3世は、ルーマニアの歴史において、オスマン帝国軍に立ち向かい、ワラキア公国の独立を守り抜いた英雄として評価されている人です。



ワラキア公ヴラド3世
(1431年～1477年)

..... ヴラド3世の生涯

- ◆ 1431年、トランシルヴァニアのドイツ人自治都市であるシギショアラで生まれたとされている。
- ◆ 当時のワラキアはオスマン帝国の侵略の脅威を抱えており、ヴラド3世は少年時代をトルコで人質として過ごした。
- ◆ オスマン帝国やハンガリー、神聖ローマ帝国といった大国の勢力争いのために父と兄が殺害された後、1448年にヴラド3世はワラキア公となったが、わずか2か月で公位がはく奪され、母方の叔父のもとへと亡命することとなった。
- ◆ 1456年に再びワラキア公に返り咲き、1462年までの7年間統治したが、その後、1463～75年の12年間はハンガリーで幽閉された。
- ◆ 1473年には3度目の公位に就いたが、父や兄同様、勢力争いに巻き込まれて、戦死した。



なぜ、この英雄であるヴラド3世がドラキュラ伯爵のモデルとなったのでしょうか？

1. 「串刺し公」の名

ヴラド3世は、ヴラッド・ツェペシュ (Vlad Țepeș) またはドラキュラ公 (Vlad Drăculea) と呼ばれています。

前者の「**ツェペシュ**」というのは姓ではなく、ルーマニア語で「**串刺しにする者**」を意味する言葉です。

ヴラド3世は、敵や捕虜、反逆者などを惨い方法で拷問したり、処刑したりしました。有名なところでは、オスマン帝国のメフト2世がワラキアへ侵攻した際に、敵側からの使節団を串刺しにして野ざらしにしたという話があります。太陽のもとに串刺しでさらされ、腐敗した仲間の遺体を見て、メフト2世は戦意を喪失したとのこと。

このようなヴラド3世の残虐性がわかる数多くのエピソードにより、とても残忍な人として知られるようになりました。

2. 「悪魔公」の名

「**ドラキュラ**」(Dracula, Drăculea) は「**竜の息子**」、つまり「**小竜公**」という意味です。

その名前は、ヴラド3世の父であるヴラド2世 (通称: ヴラッド・ドラクル Vlad Dracul) が、神聖ローマ帝国の皇帝から授かったメダルに彫られていた竜 (=ドラゴン) に由来しています。

聖書、特に新約聖書では、悪魔は蛇または竜として描かれることが多く、竜と悪魔は同一視されることも多くありました。そのため、後世で竜公は「悪魔公」と呼ばれるようになりました。



血だらけのイメージの「串刺し公」と、恐ろしいイメージの「悪魔公」の2つが重なって、

吸血鬼ドラキュラ伯爵 の人物像が出来上がったのでしょうか。



小説「吸血鬼 ドラキュラ」の舞台「ブラン城」

ドラキュラ伯爵の城のモデルは、「ブラン城」(Castelul Bran カステルル・ブラン)であると言われています。

14世紀に建てられたこの城は、南カルパチア山脈に囲まれたトランシルヴァニア南西にある、ルーマニア第2の都市ブラショフの郊外に所在します。

19世紀末～20世紀前半にはルーマニア王家にも使用されたこともあり、現在は博物館兼アトラクションとなっています。



この辺りに
あります



この城は、実はヴラド3世とはあまり関係がないという説があります。ヴラド3世は、当時の所有者であるハンガリー王に招かれて、ここに何日か滞在したことがあると言われていますが、確証はないようです。

また、ヴラド3世が実際に暮らしたことのある城は、南カルパチア山脈を流れるアルジュ川沿いにはありましたが、現在は廃墟となっているそうです。

では、どうしてドラキュラの舞台と言われているのでしょうか？

それは、ドラキュラファンにとって、トランシルヴァニアの森の奥にひっそりと建ち、秘密の抜け道、迷路のような階段や廊下など、物々しい感じが小説「吸血鬼 ドラキュラ」のイメージにぴったりだったのではないかと考えられます。

トランシルヴァニアは、ルーマニア語で『ARDEAL (アルデアール)』、ハンガリー語では『ERDELY (エルデーイ)』です。いずれも古語の『エルデーウェル』(森の彼方という意味の言葉)から来ています。

素敵だけど、ちょっとミステリアスな ブラン城

夏バージョンのブラン城

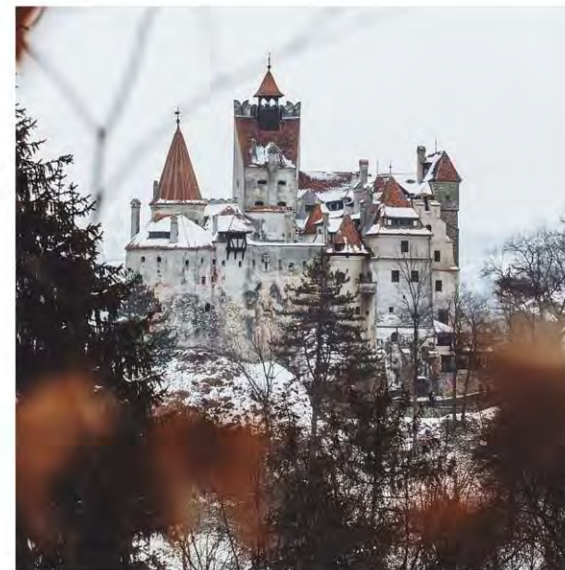


現在のブラン城は、ルーマニア有数の観光名所のひとつで、毎年、欧米を中心に多くの観光客が訪れます。

城の内部は中世の典型的な城という感じです。中世の生活が再現された居室に、装飾が施された家具や暖炉、美しいシャンデリアなどが飾られています。

また、城の周りに当時の生活の様子を紹介する野外博物館が設けられたり、手芸工芸品や「ドラキュラワイン」をはじめドラキュラにちなんだグッズを販売する店舗などもあります。歴史好きな方からドラキュラファンまで、たっぷり楽しむことができるでしょう。

冬バージョンのブラン城



■ ブラン城から北上の古都シギショアラには、ヴラド3世の生家があります。

■ 現在ここはレストラン「ヴラッド・ドラクルの家」として営業中で、血を連想させる赤い料理も楽しめます。

■ 内部には中世の武具やヴラド3世の像なども展示されていて、ドラキュラの世界の雰囲気も味わえますよ！



ルーマニアと吸血鬼

ルーマニアと吸血鬼は、昔からとても深い関係がありました。
それは、お墓への埋葬の仕方などにも表れています。

お墓を開けて、確かめる！？

小さい子どもは亡くなってから3年後、青年は4～5年後、成人は7年後に、一度、お墓を開けてみる習慣がありました。

本来なら遺体は骸骨化か腐敗しているものですが、まれに、全く腐敗していない、きれいな遺体が発見されることがあるそうです。そのような遺体は吸血鬼であると判断されて、火葬され、その灰は川に流されてしまいました。

寒冷地や乾燥地域では、地質や温度、湿度などの自然条件により、遺体が腐敗しないことがまれに起こります。

吸血鬼の迷信の恐ろしさから、「吸血恐怖症」にかかってしまい、「遺体がきれいなままなのは、夜な夜な墓を抜け出し人の血を吸うためだ」と考えてしまう人もいます。

埋葬する前に準備する！？

19世紀のルーマニアでは、吸血鬼騒ぎが起こると、吸血鬼と判断された人間の墓を掘り、遺体に銃弾を撃ち込むことがありました。

また、亡くなった人がいると、その遺体に杭を打ち込み、首を切り落とし、口にニンニクを詰め込んで埋葬したりもしていたそうです。

棺の中にキビの殻粒を入れておく習慣もありましたが、これは、遺体が吸血鬼化した際、墓から出る前にまずキビの粒が目に残り、それを食べてくれるため、退治する時間を稼ぐことができると考えられたからです。



ところで...

ドラキュラ・吸血鬼・ヴァンパイアの違いは！？

小説「吸血鬼 ドラキュラ」に登場するドラキュラ伯爵のモデルはヴラド3世であるとお伝えしましたが、決して彼自身が人の生き血を吸って生きていた…とされているわけではありません。
よく混同される「ドラキュラ」、「吸血鬼」、「ヴァンパイア」の呼称の成り立ちや違いを知れば、中世ヨーロッパとホラーの歴史をより深く理解できることでしょう。

ドラキュラ

小説「吸血鬼 ドラキュラ」の主人公の名前(固有名詞)です。
「吸血鬼といえばドラキュラ」とすぐ連想できるほど、有名なキャラクターです。

吸血鬼

人や動物の生き血を吸って生きる魔物の総称です。死霊・死者の形をとる者が多いとされます。
古いところでは、ギリシャ神話に、幼児をさらってその血を吸う「ラミア」や、若者を誘惑して生き血を吸う「エンプーサ」が登場しています。
日本では、インドから伝わってきた鬼子母神も吸血鬼の仲間であると言われています。

ヴァンパイア

吸血鬼の英語表記である Vampire に由来しています。
18世紀以降のヨーロッパで吸血鬼がヴァンパイアやヴァンピールなどの名前に統一され、一般的に使われるようになったと言われています。



作家ブラム・ストーカーが描く「ドラキュラ」



アイルランド出身の作家ブラム・ストーカーは、1897年に小説「吸血鬼 ドラキュラ」を発表しました。

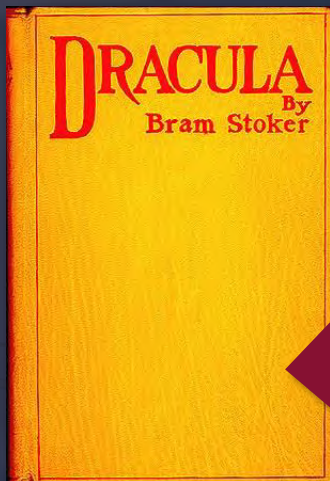
当時、ちまたで流行している吸血鬼の小説を自分で書いてみようと思い、ストーカーは多くの書物・歴史を調べました。その調査の中で、ルーマニアの中世に串刺し公と呼ばれたヴラド3世を知り、「ドラキュラ」のモデルに抜擢したようです。

小説「吸血鬼 ドラキュラ」が大ヒットしたため、ドラキュラのモデルであるヴラド3世も世間に認識されるようになりましたが、小説のイメージが強く残り、「ルーマニアの英雄」からは程遠い、残虐な吸血鬼の印象を人々に与えてしまうこととなりました。

<あらすじ>

ドラキュラ伯爵が主人公の物語で、舞台は1885年のロンドンです。死後も人の生き血を吸って生きてきたドラキュラ伯爵が、東欧のドラキュラ城を出てロンドンに現れます。そこで彼は女性たちを襲い、血を吸われた人は不死者となって、さらなる不死者を生み出し続けます。

それを防ぐため、ヴァン・ヘルシング博士とその仲間たちがドラキュラ伯爵に戦いを挑みます。最後は、ドラキュラ伯爵は博士たちによってドラキュラ城に追い詰められ、心臓に杭を打たれて撃退されてしまいます。



英雄のイメージが崩れてしまうことが危惧され、また、ルーマニアという国に対して吸血鬼や悪魔がはびこる恐ろしい場所というマイナスな印象を持たれることも懸念されたため、小説「吸血鬼 ドラキュラ」は一時期、ルーマニアでの発行・出版が禁止されました。

ルーマニアには他にも吸血鬼が存在する！？

ドラキュラ伯爵だけでなく、ルーマニアには吸血鬼に関する民間伝承が数多くあり、その種類も豊富です。一般的に知られているのは「ストリゴイ」(Strigoi)という吸血鬼です。人の生き血を吸って生きながらえる「死せるストリゴイ」(ストリゴイ・モルト)と、魔女や妖術師のような「生けるストリゴイ」(ストリゴイ・ヴィイ)の2種類ありますが、ルーマニアでは後者についての伝承の方が多いようです。ここでは、ルーマニアの他の吸血鬼をいくつかご紹介しましょう。

ヴァルコラク

狼に似た怪物で、青白い顔をし、その皮膚は乾いています。月や太陽を食べてしまうとされています。

熟睡すると、魂を遊離させて月まで飛び、月を食べて、月食を起こすとのこと。月が赤みを帯びているのは、ヴァルコラクの口から吐き出された月の血だとも信じられているそうです。太陽も月と同じように食べられてしまうとのことなのです。

ちなみに、「ヴァルコラク」という名前は、ギリシャ語の「ヴルコラス」やセルビア・クロアチア語の「ヴァコラク」に由来しています。



フォークロア「娘と吸血鬼」

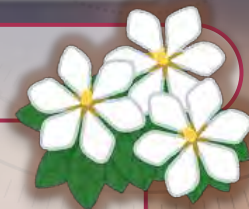
ルーマニアの古い民話で、あらすじは次のとおりです。

ある青年が恋人との結婚を彼女の親に反対され、自殺してしまう。死後、吸血鬼になった彼は、たびたび恋人の家を訪れ、二人の仲はしばらく続いた。恋人は彼がもう死者であることを知っていたが、不憫に思って、彼との付き合いを続けていた。

しかし、ある日、恋人の両親が亡くなったため、彼との関係は良くないことだと思い、恋人から彼へ別れを告げる。その後、彼女も亡くなった。

娘の死後、彼女の墓からは一本の草が伸び、花が咲いた。その花を見つけた皇太子が、城へ持ち帰ると、花は娘の姿に変わった。皇太子は娘に一目ぼれをし、二人は結婚した。

しばらくして二人は教会へ行った。そこへ吸血鬼になった元恋人の青年が追いかけてきた。すると、教会のイコン(聖像)が倒れてきて、元恋人は消滅。その後、皇太子と娘は幸せに暮らした。



世界各国の

吸血鬼の伝説

もご紹介しましょう！

東南アジア

「ランスヤール」

出産時に死亡した女性の霊が取り憑いた女性の吸血鬼で、妊産婦の首筋に穴をあけ血を吸い取ったりする。

その姿は、緑色のローブを羽織り、爪は長く、踵まで届く長い黒髪をなびかせている。

出産の話をするとう怯えて、突然手を叩き、近くの木へと逃げるといふ。



「ポロング」

殺された人間の血を好む吸血鬼。

死者の血を瓶に入れて2週間置くと、その中で生まれ育って、「チツ、チツ」と泣きながら外に出てくる。人の皮膚から忍び込み相手を病気にしたり、死なせたりする。

「ペレシット」

ポロングと行動を共にするコオロギのような吸血鬼。その鋭い尾で人間の肌に穴を開けて入り込む。

南洋に多い一種の吸血虫とも考えられている。



アフリカ

「オバイフォ」

ガーナのアシャンティ族の隠れ魔女。

昼間は人間の姿をして暮らしているが、夜になると離体現象を起こし、魂が光球のように飛びまわる。

特に子どもの血を好んで吸い、果物や野菜ジュースも飲む、健康志向(?)の吸血鬼。

「アササボンサム」

アシャンティ族のフォークロアに伝わる吸血鬼に似た怪物。姿は人間だが、鉄の歯と、カギのように先の曲がった脚を持つ。森の奥に住んで、通りがかった人間を襲う。

西ヨーロッパ

「ナハトツェラー」

ドイツ北部での吸血鬼の呼び方で、意味は「夜を浪費する者」。南部では「ブルートザウガー」(血を吸う者)と呼ばれている。どちらも墓から蘇り、家族や知人を襲う。

ドイツの吸血鬼は、スラヴの吸血鬼の影響が強い。

ヴァン・ヘルシング Van Helsing (2004年)



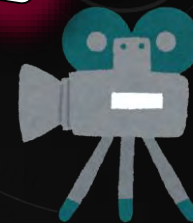
主人公は、小説「吸血鬼ドラキュラ」でドラキュラ伯爵と戦ったヴァン・ヘルシング博士がモデル。この映画では、不死身のモンスター・ハンターとして描かれています。

主演は「X-MEN」のヒュー・ジャックマンで、「ロード・オブ・ザ・リング」のファラミア役のデビッド・ウェンハムが共演しています。

ドラキュラ伯爵のほか、フランケンシュタインや狼男、ジキル博士とハイド氏、ドラキュラ伯爵の3人の花嫁や子どもたちまで登場し、超豪華なアクション映画となっています。最後はヴァン・ヘルシングが狼男に変身し、ドラキュラ伯爵を退治します。



映画で見る “吸血鬼”



トワイライト～初恋～ Twilight (2008年)

吸血鬼ゴケミドロ (1968年)



日本のSF映画で、話は旅客機がハイジャックされるところから始まります。

旅客機は山の中に不時着し、ハイジャック犯を含む10名が生き残りました。彼らはその山でUFOを発見し、中に入ってみたところ、突然ハイジャック犯の額が割れて、スライムのような物体が額の傷から入っていきます。その物体は宇宙生物「ゴケミドロ」でした。ゴケミドロに寄生された人間は吸血鬼になってしまい、次々に他の人を襲います。

副操縦士と客室乗務員の2名だけは何とかそこから脱出できましたが、たどり着いた町は死体の山で埋め尽くされていました。すでに世界各地にゴケミドロのUFOが飛来していて、地球は死の星と化していった…という救いのない感じのストーリーです。

吸血鬼と人間の少女との禁断の恋を描いたベストセラー小説「トワイライト」を映画化したもので、シリーズ5作品の中の1作目です。

「トワイライト～初恋～」では、高校生のベラがフォークスという町へ引っ越してきて、そこでエドワードという青年と知り合います。ある日、エドワードは超人的な力でベラの命を救います。その力に驚いたベラは、彼の正体を探り、彼が吸血鬼の血筋であることを知りました。

この映画の中の吸血鬼は、不老不死で、とてつもない力を持っていますが、十字架やニンニクなどの弱点はなく、太陽の光を浴びても体が輝くだけで、死なないのが特徴です。また、エドワードの家系は菜食主義で、血を飲みません。



Multumesc



【情報・写真・イラスト等 提供元】

- ルーマニア大使館: <https://tokyo.mae.ro/jp>
- ルーマニア政府観光・商務局: <https://www.romaniatabi.jp/>
- Unsplash: <https://unsplash.com/>
- いらすとや: <http://www.irasutoya.com/>

【参考文献】

- 「ルーマニアを知るための60章」六鹿茂夫著
- 「ドラキュラ誕生」仁賀克雄著
- 「《ドラキュラ公》ヴラド・ツェペシュ」清水正晴著
- 「ワールドミステリーツアー13 ⑥東欧篇」(株)同朋舎
- 「世界の国を知る・世界の国から学ぶ『わたしたちの地球と未来』
ルーマニア」(公財)愛知県国際交流協会

公益財団法人愛知県国際交流協会 -Aichi International Association-



▲ルーマニア大使館へ



▲ルーマニア観光局へ